

DFA メッセージ

QAC 11.3.0 / QAC++ 6.3.0 / DATAFLOW 1.3.0 以降

メッセージID	メッセージテキスト	QAC	QAC++	QAC 7.2.3
2668	配列を指すポインタと、非配列のポインタとの間で減算しています。	○	○	
2669	配列を指すポインタと、非配列のポインタとの間で比較しています。	○	○	
2671	D: マクロ EOF と比較されている値は、明らかに EOF を戻す関数から得られたものではありません	○	○	
2674	P: マクロ EOF と比較されている値は、EOF を戻す関数から得られたものではない可能性があります	○	○	
2676	D: EOF を戻す関数から得られた値が、明らかにマクロ EOF と比較される前に変更されています。	○	○	
2678	S: EOF を戻す関数から得られた値が、マクロ EOF と比較される前に変更されている恐れがあります。	○	○	
2681	D: 明らかに無効になった標準ライブラリ関数から返された値 '%s'を使用しています。	○	○	
2682	A: 無効になった標準ライブラリ関数から返された値'%s'を使用することがあります。	○	○	
2683	S: 無効になった標準ライブラリ関数から返された値'%s'を使用する恐れがあります。	○	○	
2686	D: 明らかに読み取り用に開かれたファイルに書き込んでいます。	○	○	
2687	A: 読み取り用に開かれたファイルに書き込むことがあります。	○	○	
2688	S: 読み取り用に開かれたファイルに書き込む恐れがあります。	○	○	
2691	D: 明らかに同じファイルが書き込み用と他のモードで同時に開かれています。	○	○	
2692	A: 同じファイルが書き込み用と他のモードで同時に開かれることがあります。	○	○	
2693	S: 同じファイルが書き込み用と他のモードで同時に開かれる恐れがあります。	○	○	
2696	D: 明らかに閉じられたファイルにアクセスを試みています。	○	○	
2697	A: 閉じられたファイルにアクセスを試みることがあります。	○	○	
2698	S: 閉じられたファイルにアクセスを試みる恐れがあります。	○	○	
2701	D: 明らかに開かれたファイルが閉じられていません。	○	○	
2702	A: 開かれたファイルが閉じられないことがあります。	○	○	
2703	S: 開かれたファイルが閉じられない恐れがあります。	○	○	
2706	D: 明らかに確保されたメモリが解放されていません。	○	○	
2707	A: 確保されたメモリが解放されないことがあります。	○	○	
2708	S: 確保されたメモリが解放されない恐れがあります。	○	○	
2711	D: 明らかにメモリの確保と解放の組み合わせが不適切です。	○	○	
2712	A: メモリの確保と解放の組み合わせが不適切なことがあります。	○	○	
2713	S: メモリの確保と解放の組み合わせが不適切な恐れがあります。	○	○	
2716	D: 明らかにメモリの解放が複数回行われています。	○	○	
2717	A: メモリの解放が複数回行われることがあります。	○	○	
2718	S: メモリの解放が複数回行われる恐れがあります。	○	○	
2719	P: メモリの解放が複数回行われる可能性があります。	○	○	
2721	D: 明らかに非動的メモリを解放しています。	○	○	
2722	A: 非動的メモリを解放することがあります。	○	○	
2723	S: 非動的メモリを解放する恐れがあります。	○	○	
2724	P: 非動的メモリを解放する可能性があります。	○	○	
2726	D: 明らかに初期化されていないリソースを使用しています。	○	○	
2727	A: 初期化されていないリソースを使用することがあります。	○	○	
2728	S: 初期化されていないリソースを使用する恐れがあります。	○	○	
2731	D: 明らかに破棄されたリソースを使用しています。	○	○	
2732	A: 破棄されたリソースを使用することがあります。	○	○	
2733	S: 破棄されたリソースを使用する恐れがあります。	○	○	

メッセージID	メッセージテキスト	QAC	QAC++	QAC 7.2.3
2736	D: 明らかに作成されたリソースが破棄されていません。	○	○	
2737	A: 作成されたリソースが破棄されないことがあります。	○	○	
2738	S: 作成されたリソースが破棄されない恐れがあります。	○	○	
2740	このループ制御式は、値が「真」の定数式です。	○	3052 4091 4092 4093	3323
2741	この if 制御式は、値が「真」の定数式です。	○	3272 4090	3346
2742	この if 制御式は、値が「偽」の定数式です。	○	3273 4090	3325 3329
2743	この do - while ループ制御式は、値が「偽」の定数式です。ループは一回しか実行されません。	○	○	3361
2744	この while または for のループ制御式は、値が「偽」の定数式です。ループは一度も実行されません。	○	3273 4091 4093	3325
2746	D: 明らかに初期化されていないファイルハンドルを使用しています。	○	○	
2747	A: 初期化されていないファイルハンドルを使用することがあります。	○	○	
2748	S: 初期化されていないファイルハンドルを使用する恐れがあります。	○	○	
2750	データフローで内部エラーが発生しました。次の関数からデータフロー解析を続行します。東陽テクニカに連絡してください。	○	○	0097
2751	この関数は複雑すぎます。次の関数からデータフロー解析を続行します。	○	○	
2752	この '%s' によって関数が複雑になっています。次の関数からデータフロー解析を続行します。	○	○	
2753	エラーメッセージ '%s' が検出されたため、この関数の残りの部分のデータフロー解析を中止します。	○	×	
2754	エラーメッセージ '%s' が検出されたため、この翻訳単位の残りの部分のデータフロー解析を中止します。	○	×	
2755	関数 '%1s' の解析時間が、設定された最大値 '%s ms' を超えました。次の関数からデータフロー解析を続行します。	○	○	
2756	'-po df::inter' の最大値では、'%1s' への関数呼び出しを展開できませんでした。	○	○	
2757	関数 '%1s' を解析できませんでした。	○	○	
2758	クエリが設定された最大値 '%1sms' を超えました。次のクエリからデータフロー解析を続行します。	○	○	
2759	'%1s' の定義に対する ODR 違反です。次の関数からデータフロー解析を続行します。	○	○	
2761	D: 明らかに異なるオブジェクトを指すポインタ同士を減算しています。	○	○	
2762	A: 異なるオブジェクトを指すポインタ同士を減算することがあります。	○	○	
2763	S: 異なるオブジェクトを指すポインタ同士を減算する恐れがあります。	○	○	
2766	D: 明らかに同じオブジェクトの異なるメンバを指すポインタ同士を減算しています。	○	○	
2767	A: 同じオブジェクトの異なるメンバを指すポインタ同士を減算することがあります。	○	○	
2768	S: 同じオブジェクトの異なるメンバを指すポインタ同士を減算する恐れがあります。	○	○	
2771	D: 明らかに異なるオブジェクトを指すポインタ同士を比較しています。	○	○	
2772	A: 異なるオブジェクトを指すポインタ同士を比較することがあります。	○	○	
2773	S: 異なるオブジェクトを指すポインタ同士を比較する恐れがあります。	○	○	
2776	D: 明らかにメモリが重なり合っているオブジェクト同士をコピーしています。	○	○	
2777	A: メモリが重なり合っているオブジェクト同士をコピーすることがあります。	○	○	
2778	S: メモリが重なり合っているオブジェクト同士をコピーする恐れがあります。	○	○	
2781	D: インライン呼出しではない関数の実引数が、明らかに仮引数宣言内の配列の次元より少ない要素を持ちます。	○	×	
2782	A: インライン呼出しではない関数の実引数が、仮引数宣言内の配列の次元より少ない要素を持つことがあります。	○	×	

メッセージID	メッセージテキスト	QAC	QAC++	QAC 7.2.3
2783	S: インライン呼出しではない関数の実引数が、仮引数宣言内の配列の次元より少ない要素を持つ恐れがあります。	○	×	
2784	P: インライン呼出しではない関数の実引数が、仮引数宣言内の配列の次元より少ない要素を持つ可能性があります	○	×	
2785	C: Null 終端文字列が標準ライブラリ関数 memcmp に実引数として渡されています。	○	○	
2786	D: 明らかに Null 終端文字列が標準ライブラリ関数 memcmp に実引数として渡されています。	○	○	
2789	P: Null 終端文字列が標準ライブラリ関数 memcmp に実引数として渡されている可能性があります。	○	○	
2790	C: シフト演算子の右オペランドの値が、負であるか大きすぎます。	○	○	0500 0501
2791	D: シフト演算子の右オペランドの値が、明らかに負であるか大きすぎます。	○	○	
2792	A: シフト演算子の右オペランドが、負または大きすぎる値になることがあります。	○	○	
2793	S: シフト演算子の右オペランドが、負または大きすぎる値になる恐れがあります。	○	○	
2794	P: 汚染されたシフト演算子の右オペランドの値が、負であるか大きすぎる可能性があります。	○	○	
2796	D: 明らかに無効な文字の値を用いて標準ライブラリの文字処理関数を呼出しています。	○	○	
2797	A: 無効な文字の値を用いて標準ライブラリの文字処理関数を呼出すことがあります。	○	○	
2798	S: 無効な文字の値を用いて標準ライブラリの文字処理関数を呼出す恐れがあります。	○	○	
2799	P: 無効な文字の値を用いて標準ライブラリの文字処理関数を呼出す可能性があります。	○	○	
2800	C: 符号付き算術演算で、オーバーフローが発生しています。	○	○	0278
2801	D: 符号付き算術演算で、明らかにオーバーフローが発生しています。	○	○	0296
2802	A: 符号付き算術演算で、オーバーフローが発生することがあります。	○	○	0297
2803	S: 符号付き算術演算で、オーバーフローが発生する恐れがあります。	○	○	0297
2804	P: 汚染された符号付き算術演算で、オーバーフローが発生する可能性があります。	○	○	
2806	D: 明らかに無効な文字の値を用いて標準ライブラリのワイド文字処理関数を呼出しています。	○	○	
2807	A: 無効な文字の値を用いて標準ライブラリのワイド文字処理関数を呼出すことがあります。	○	○	
2808	S: 無効な文字の値を用いて標準ライブラリのワイド文字処理関数を呼出す恐れがあります。	○	○	
2809	P: 無効な文字の値を用いて標準ライブラリのワイド文字処理関数を呼出す可能性があります。	○	○	
2810	C: NULL ポインタを間接参照しています。	○	○	0503
2811	D: 明らかに NULL ポインタを間接参照しています。	○	○	0504
2812	A: NULL ポインタを間接参照することがあります。	○	○	0505
2813	S: NULL ポインタを間接参照する恐れがあります。	○	○	0506
2814	P: NULL ポインタを間接参照する可能性があります。	○	○	0506
2816	D: 明らかに無効な文字の値を用いて標準ライブラリの文字入出力処理関数を呼出しています。	○	○	
2817	A: 無効な文字の値を用いて標準ライブラリの文字入出力処理関数を呼出すことがあります。	○	○	
2818	S: 無効な文字の値を用いて標準ライブラリの文字入出力処理関数を呼出す恐れがあります。	○	○	
2819	P: 無効な文字の値を用いて標準ライブラリの文字入出力処理関数を呼出す可能性があります。	○	○	
2820	C: NULL ポインタを算術演算しています。	○	○	0507

メッセージID	メッセージテキスト	QAC	QAC++	QAC 7.2.3
2821	D: 明らかに NULL ポインタを算術演算しています。	○	○	0508
2822	A: NULL ポインタを算術演算することがあります。	○	○	0509
2823	S: NULL ポインタを算術演算する恐れがあります。	○	○	0510
2824	P: NULL ポインタを算術演算する可能性があります。	○	○	0510
2826	D: 明らかに、生存期間を過ぎたオブジェクトを使用しています。	○	○	
2827	A: 生存期間を過ぎたオブジェクトを使用することがあります。	○	○	
2828	S: 生存期間を過ぎたオブジェクトを使用する恐れがあります。	○	○	
2830	C: ゼロで除算しています。	○	○	0586
2831	D: 明らかにゼロで除算しています。	○	○	0587
2832	A: ゼロ除算が発生することがあります。	○	○	0585
2833	S: ゼロ除算が発生する恐れがあります。	○	○	
2834	P: ゼロ除算が発生する可能性があります。	○	○	0584
2835	C: null 終端されていない文字列が文字列関数で使用されています。	○	○	
2836	D: 明らかに null 終端されていない文字列が文字列関数で使用されています。	○	○	
2839	P: null 終端されていない文字列が文字列関数で使用される可能性があります。	○	○	
2840	C: 無効なポインタ値を間接参照しています。	○	○	3680
2841	D: 明らかに無効なポインタ値を間接参照しています。	○	○	3685
2842	A: 無効なポインタ値を間接参照することがあります。	○	○	3689
2843	S: 無効なポインタ値を間接参照する恐れがあります。	○	○	
2844	P: 無効なポインタ値を間接参照する可能性があります。	○	○	
2845	C: 読み書きされる文字の最大数が、ターゲットバッファのサイズを超えています。	○	○	
2846	D: 読み書きされる文字の最大数が、明らかにターゲットバッファのサイズを超えています。	○	○	
2847	A: 読み書きされる文字の最大数が、ターゲットバッファのサイズを超えることがあります。	○	○	
2848	S: 読み書きされる文字の最大数が、ターゲットバッファのサイズを超える恐れがあります。	○	○	
2849	P: 読み書きされる文字の最大数が、ターゲットバッファのサイズを超える可能性があります。	○	○	
2850	C: 大きさが十分でない符号付き整数型への暗黙の変換が発生しています。	○	○	0274
2851	D: 明らかに大きさが十分でない符号付き整数型への暗黙の変換が発生しています。	○	○	0273
2852	A: 大きさが十分でない符号付き整数型への暗黙の変換が発生することがあります。	○	○	0272
2853	S: 大きさが十分でない符号付き整数型への暗黙の変換が発生する恐れがあります。	○	○	0272
2854	P: 汚染された式の大きさが十分でない符号付き整数型への暗黙の変換が発生する可能性があります。	○	○	
2855	C: 大きさが十分でない符号付き整数型へキャストしています。	○	○	0274
2856	D: 明らかに大きさが十分でない符号付き整数型へキャストしています。	○	○	0273
2857	A: 大きさが十分でない符号付き整数型へのキャストになることがあります。	○	○	0272
2858	S: 大きさが十分でない符号付き整数型へのキャストになる恐れがあります。	○	○	0272
2859	P: 汚染された式の大きさが十分でない符号付き整数型へのキャストになる可能性があります。	○	○	
2860	C: 符号付き型の式の左シフト演算の結果が、処理系定義の値になります。	○	○	0271
2861	D: 符号付き型の式の左シフト演算の結果が、明らかに処理系定義の値になります。	○	○	0294
2862	A: 符号付き型の式の左シフト演算の結果が、処理系定義の値になることがあります。	○	○	0295
2863	S: 符号付き型の式の左シフト演算の結果が、処理系定義の値になる恐れがあります。	○	○	0295
2864	P: 汚染された符号付き型の式の左シフト演算の結果が、処理系定義の値になる可能性があります。	○	○	
2865	C: ゼロを関数呼出しのサイズパラメータとして使用しています。	○	○	

メッセージID	メッセージテキスト	QAC	QAC++	QAC 7.2.3
2866	D: 明らかにゼロを関数呼出しのサイズパラメータとして使用しています。	○	○	
2867	A: ゼロを関数呼出しのサイズパラメータとして使用することがあります。	○	○	
2868	S: ゼロを関数呼出しのサイズパラメータとして使用する恐れがあります。	○	○	
2869	P: ゼロを関数呼出しのサイズパラメータとして使用する可能性があります。	○	○	
2870	定数制御式をもつ無限ループが記述されています。	○	○	
2871	無限ループを発見しました。	○	○	
2872	このループに入ると、決して脱出できません。	○	○	
2877	このループは一回しか実行されません。	○	○	2465
2880	このコードには到達できません。	○	○	3201
2881	この default 節の中のコードには到達できません。	○	○	2018
2882	この switch 文では、ローカル変数の初期化が省略されます。	○	○	0689
2883	この goto 文によって、ローカル変数の初期化が常に省略されます。	○	○	1313
2885	return しないものと宣言されていないにも関わらず、この関数は呼出し元に戻りません。	○	○	
2886	return しないものと宣言されているにも関わらず、この関数は呼出し元に戻ります。	○	○	
2887	関数 main に return 文のないパスが存在します。	○	○	0744
2888	この関数は void 型以外を戻すように宣言されていますが、return 文のないパスが存在します。	○	○	0744
2889	この関数には複数の return パスが存在します。	○	○	2006
2890	C: 負の値が暗黙的に符号無し型に変換されています。	○	○	0277
2891	D: 明らかに負の値が暗黙的に符号無し型に変換されています。	○	○	0290
2892	A: 負の値が暗黙的に符号無し型に変換されることがあります。	○	○	0291
2893	S: 負の値が暗黙的に符号無し型に変換される恐れがあります。	○	○	0291
2894	P: 汚染された負の値が暗黙的に符号無し型に変換される可能性があります。	○	○	
2895	C: 負の値が符号無し型にキャストされています。	○	○	0277
2896	D: 明らかに負の値が符号無し型にキャストされています。	○	○	0290
2897	A: 負の値が符号無し型にキャストされることがあります。	○	○	0291
2898	S: 負の値が符号無し型にキャストされる恐れがあります。	○	○	0291
2899	P: 汚染された負の値が符号無し型にキャストされる可能性があります。	○	○	
2900	C: より小さい符号無し型への暗黙の変換時に、正の整数値が切り捨てられています。	○	○	3306
2901	D: より小さい符号無し型への暗黙の変換時に、明らかに正の整数値が切り捨てられています。	○	○	3296
2902	A: より小さい符号無し型への暗黙の変換時に、正の整数値が切り捨てられることがあります。	○	○	3297
2903	S: より小さい符号無し型への暗黙の変換時に、正の整数値が切り捨てられる恐れがあります。	○	○	3297
2904	P: より小さい符号無し型への暗黙の変換時に、汚染された正の整数値が切り捨てられる可能性があります。	○	○	
2905	C: より小さい符号無し型へのキャスト時に、正の整数値が切り捨てられています。	○	○	3290
2906	D: より小さい符号無し型へのキャスト時に、明らかに正の整数値が切り捨てられています。	○	○	
2907	A: より小さい符号無し型へのキャスト時に、正の整数値が切り捨てられることがあります。	○	○	
2908	S: より小さい符号無し型へのキャスト時に、正の整数値が切り捨てられる恐れがあります。	○	○	
2909	P: より小さい符号無し型へのキャスト時に、汚染された正の整数値が切り捨てられる可能性があります。	○	○	

メッセージID	メッセージテキスト	QAC	QAC++	QAC 7.2.3
2910	C: 符号無し算術演算で、ラップアラウンドが発生しています。	○	○	3302 3303 3304
2911	D: 符号無し算術演算で、明らかにラップアラウンドが発生しています。	○	○	3372
2912	A: 符号無し算術演算で、ラップアラウンドが発生することがあります。	○	○	3382
2913	S: 符号無し算術演算で、ラップアラウンドが発生する恐れがあります。	○	○	3382
2914	P: 汚染された符号無し算術演算で、ラップアラウンドが発生する可能性があります。	○	○	
2916	D: 明らかに、オブジェクトのアドレスが、それより生存期間が長いポインタに格納されています。	○	○	
2917	A: オブジェクトのアドレスが、それより生存期間が長いポインタに格納されることがあります。	○	○	
2918	S: オブジェクトのアドレスが、それより生存期間が長いポインタに格納される恐れがあります。	○	○	
2919	P: オブジェクトのアドレスが、それより生存期間が長いポインタに格納される可能性があります。	○	○	
2920	C: 符号無し型の式の左シフト演算によって、より上位のビットが切り捨てられています。	○	○	3301
2921	D: 符号無し型の式の左シフト演算によって、より上位のビットが明らかに切り捨てられています。	○	○	3371
2922	A: 符号無し型の式の左シフト演算によって、より上位のビットが切り捨てられることがあります。	○	○	3381
2923	S: 符号無し型の式の左シフト演算によって、より上位のビットが切り捨てられる恐れがあります。	○	○	
2924	P: 汚染された符号無し型の式の左シフト演算によって、より上位のビットが切り捨てられる可能性があります。	○	○	
2925	C: 整数型の値から浮動小数点型への変換時に精度を損失しています。	○	○	
2926	D: 明らかに、整数型の値から浮動小数点型への変換時に精度を損失します。	○	○	
2930	C: 無効なポインタ値を計算しています。	○	○	3680
2931	D: 明らかに無効なポインタ値を計算しています。	○	○	3685
2932	A: 無効なポインタ値を計算することがあります。	○	○	3689
2933	S: 無効なポインタ値を計算する恐れがあります。	○	○	
2934	P: 無効なポインタ値を計算する可能性があります。	○	○	
2935	C: 無効な char ポインタ値を間接参照しています。	○	○	
2936	D: 明らかに、無効な char ポインタ値を間接参照しています。	○	○	
2937	A: 無効な char ポインタ値の間接参照であることがあります。	○	○	
2938	S: 無効な char ポインタ値の間接参照である恐れがあります。	○	○	
2939	P: 無効な char ポインタ値の間接参照である可能性があります。	○	○	
2940	C: 暗黙の変換の結果が、2 の補数以外では表現できません。	○	○	0280
2941	D: 暗黙の変換の結果が、明らかに 2 の補数以外では表現できません。	○	○	0281
2942	A: 暗黙の変換の結果が、2 の補数以外では表現できないことがあります。	○	○	0282
2943	S: 暗黙の変換の結果が、2 の補数以外では表現できない恐れがあります。	○	○	0282
2944	P: 汚染された式の暗黙の変換の結果が、2 の補数以外では表現できない可能性があります。	○	○	
2945	C: キャストの結果が、2 の補数以外では表現できません。	○	○	0280
2946	D: キャストの結果が、明らかに 2 の補数以外では表現できません。	○	○	0281
2947	A: キャストの結果が、2 の補数以外では表現できないことがあります。	○	○	0282
2948	S: キャストの結果が、2 の補数以外では表現できない恐れがあります。	○	○	0282
2949	P: 汚染された式のキャストの結果が、2 の補数以外では表現できない可能性があります。	○	○	
2950	C: 配列添字演算またはポインタ算術演算で、負の値が使用されています。	○	○	3681
2951	D: 配列添字演算またはポインタ算術演算で、明らかに負の値が使用されています。	○	○	3686

メッセージID	メッセージテキスト	QAC	QAC++	QAC 7.2.3
2952	A: 配列添字演算またはポインタ算術演算で、負の値が使用されることがあります。	○	○	3690
2953	S: 配列添字演算またはポインタ算術演算で、負の値が使用される恐れがあります。	○	○	
2954	P: 配列添字演算またはポインタ算術演算で、汚染された負の値が使用される可能性があります。	○	○	
2956	D: 明らかに汚染された値をもつ '%s' を使用しています。	○	○	
2959	P: 汚染された値をもつ '%s' を使用する可能性があります。	○	○	
2961	D: 明らかに初期化されていないオブジェクト'%s'の値を使用しています。	○	○	3321
2962	A: 初期化されていないオブジェクト'%s'の値を使用することがあります。	○	○	3347
2963	S: 初期化されていないオブジェクト'%s'の値を使用する恐れがあります。	○	○	3353
2966	D: 明らかにオブジェクト'%s'のメンバの一部は初期化されていません。	○	○	
2967	A: オブジェクト'%s'のメンバの一部が初期化されていないことがあります。	○	○	
2968	S: オブジェクト'%s'のメンバの一部が初期化されていない恐れがあります。	○	○	
2971	D: 明らかに初期化されていないオブジェクト'%s'のアドレスを、const を指すポインタとして宣言された関数仮引数に渡しています。	○	○	3348
2972	A: 初期化されていないオブジェクト'%s'のアドレスを、const を指すポインタとして宣言された関数仮引数に渡すことがあります。	○	○	3349
2973	S: 初期化されていないオブジェクト'%s'のアドレスを、const を指すポインタとして宣言された関数仮引数に渡す恐れがあります。	○	○	3354
2976	D: 明らかに一部だけ初期化されたオブジェクト'%s'のアドレスを、const を指すポインタとして宣言された関数仮引数に渡しています。	○	○	
2977	A: 一部だけ初期化されたオブジェクト'%s'のアドレスを、const を指すポインタとして宣言された関数仮引数に渡すことがあります。	○	○	
2978	S: 一部だけ初期化されたオブジェクト'%s'のアドレスを、const を指すポインタとして宣言された関数仮引数に渡す恐れがあります。	○	○	
2980	関数仮引数の値は、全く使用されないまま変更されています。	○	○	3195
2981	この初期化は冗長です。このオブジェクトの値は、全く使用されないまま変更されています。	○	○	3197
2982	この代入は冗長です。このオブジェクトの値は、全く使用されないまま変更されています。	○	○	3198
2983	この代入は冗長です。このオブジェクトの値は、この代入の後に一度も使用されていません。	○	○	3199
2984	この演算は冗長です。結果の値は、常に'%1s'になります。	○	○	
2985	この演算は冗長です。結果の値は、常に左オペランドの値になります。	○	○	
2986	この演算は冗長です。結果の値は、常に右オペランドの値になります。	○	○	
2987	この関数呼出しは、副作用を引き起こさないため冗長です。	○	○	
2988	この関数ポインタの仮引数は、ガード節をもつか、または参照型に変換するべきです。	×	○	
2990	このループ制御式の値は常に「真」です。	○	○	3357
2991	この if 制御式の値は常に「真」です。	○	○	3358
2992	この if 制御式の値は常に「偽」です。	○	○	3359
2993	この do - while 制御式の値は常に「偽」です。ループは一回しか実行されません。	○	○	3360
2994	この while または for ループ制御式の値は常に「偽」です。ループは一度も実行されません。	○	○	2466 3359
2995	この論理演算の結果は常に「真」です。	○	○	3324 3355
2996	この論理演算の結果は常に「偽」です。	○	○	3316 3356
2997	この条件演算子の第一オペランドは常に「真」です。	○	○	
2998	この条件演算子の第一オペランドは常に「偽」です。	○	○	
3516	D: 明らかにオブジェクトは自動記憶域を持つべきです。	○	○	
3518	同じオブジェクトへの順序の定まっていない変更およびアクセスです。	○	○	

メッセージID	メッセージテキスト	QAC	QAC++	QAC 7.2.3
3520	C: placement new 演算には不十分なメモリ領域です。	×	○	
3521	D: 明らかに placement new 演算には不十分なメモリ領域です。	×	○	
3522	A: placement new 演算には不十分なメモリ領域であることがあります。	×	○	
3523	S: placement new 演算には不十分なメモリ領域である恐れがあります。	×	○	
3524	P: placement new 演算には不十分なメモリ領域である可能性があります。	×	○	
3526	D: 明らかに空のコンテナにアクセスします。	×	○	
3527	A: 空のコンテナにアクセスすることがあります。	×	○	
3528	S: 空のコンテナにアクセスする恐れがあります。	×	○	
3529	P: 空のコンテナにアクセスする可能性があります。	×	○	
3530	C: コンテナ領域のオーバーフローが発生します。	×	○	
3531	D: 明らかにコンテナ領域のオーバーフローが発生します。	×	○	
3532	A: コンテナ領域のオーバーフローが発生することがあります。	×	○	
3533	S: コンテナ領域のオーバーフローが発生する恐れがあります。	×	○	
3534	P: コンテナ領域のオーバーフローが発生する可能性があります。	×	○	
3535	関数呼出しの結果が '%1s' と照合されていますが '%2s' とは照合されていません。	○	○	
3536	このロック操作は失敗する可能性があります、リターンステータスが無視されています。	○	○	
3537	この timed lock 操作は非 timed mutex に適用されています。	○	○	
3541	D: 明らかに汚染された変数をループ制御式で使用しています。	○	○	
3542	A: 汚染された変数をループ制御式で使うことがあります。	○	○	
3543	S: 汚染された変数をループ制御式で使う恐れがあります。	○	○	
3544	P: 汚染された変数をループ制御式で使う可能性があります。	○	○	
3546	D: 明らかに不十分な文字列のサイズをもつパス操作関数を呼出しています。	○	○	
3547	A: 不十分な文字列のサイズをもつパス操作関数を呼出すことがあります。	○	○	
3548	S: 不十分な文字列のサイズをもつパス操作関数を呼出す恐れがあります。	○	○	
3549	P: 不十分な文字列のサイズをもつパス操作関数を呼出す可能性があります。	○	○	
4701	D: 明らかに未規定の状態のオブジェクトが使用されています。	×	○	
4702	A: 未規定の状態のオブジェクトが使用されることがあります。	×	○	
4703	S: 未規定の状態のオブジェクトが使用される恐れがあります。	×	○	
4704	未規定の状態のオブジェクトが実行不可能なパスで使用されています。	×	○	
4706	D: 明らかにラムダ式が参照キャプチャした一部またはすべてのオブジェクトより長く生存します。	×	○	
4707	A: ラムダ式が参照キャプチャした一部またはすべてのオブジェクトより長く生存することがあります。	×	○	
4708	S: ラムダ式が参照キャプチャした一部またはすべてのオブジェクトより長く生存する恐れがあります。	×	○	
4711	D: 明らかにファイルストリームの I/O 操作の切り替えに、位置を決める関数の呼出しや EOF がありません。	○	○	
4712	A: ファイルストリームの I/O 操作の切り替えに、位置を決める関数の呼出しや EOF がないことがあります。	○	○	
4713	S: ファイルストリームの I/O 操作の切り替えに、位置を決める関数の呼出しや EOF がない恐れがあります。	○	○	
4716	D: 明らかにファイルストリームの I/O 操作の切り替えに、位置を決める関数の呼出しがありません。	○	○	
4717	A: ファイルストリームの I/O 操作の切り替えに、位置を決める関数の呼出しがないことがあります。	○	○	
4718	S: ファイルストリームの I/O 操作の切り替えに、位置を決める関数の呼出しがない恐れがあります。	○	○	
4721	D: 明らかにスマートポインタに関する所有権の違反です。	×	○	
4722	A: スマートポインタの所有権に関する違反になる場合があります。	×	○	
4723	S: スマートポインタの所有権に関する違反になる恐れがあります。	×	○	

メッセージID	メッセージテキスト	QAC	QAC++	QAC 7.2.3
4726	D: 明らかにオブジェクト表現の部分ではないパディングビットを比較しています。	○	○	
4727	A: オブジェクト表現の部分ではないパディングビットを比較することがあります。	○	○	
4728	S: オブジェクト表現の部分ではないパディングビットを比較する恐れがあります。	○	○	
4729	P: オブジェクト表現の部分ではないパディングビットを比較する可能性があります。	○	○	
4731	D: 明らかに polymorphic データのビット演算です。	×	○	
4732	A: polymorphic データのビット演算になることがあります。	×	○	
4733	S: polymorphic データのビット演算になる恐れがあります。	×	○	
4734	P: polymorphic データのビット演算になる可能性があります。	×	○	
4736	D: 明らかに new 演算子の不適切なオーバーロードです。	×	○	
4737	A: new 演算子の不適切なオーバーロードになることがあります。	×	○	
4738	S: new 演算子の不適切なオーバーロードになる恐れがあります。	×	○	
4739	P: new 演算子の不適切なオーバーロードになる可能性があります。	×	○	
4741	D: 明らかに非標準レイアウトオブジェクトが実行の境界で使用されています。	×	○	
4742	A: 非標準レイアウトオブジェクトが実行の境界で使用されることがあります。	×	○	
4743	S: 非標準レイアウトオブジェクトが実行の境界で使用される恐れがあります。	×	○	
4746	D: 明らかに無効なイテレータの使用です。	×	○	
4747	A: 無効なイテレータの使用になることがあります。	×	○	
4748	S: 無効なイテレータの使用になる恐れがあります。	×	○	
4749	P: 無効なイテレータの使用になる可能性があります。	×	○	
4751	D: 明らかにライブラリ関数の戻り値によって参照されているオブジェクトを変更しています。	○	○	
4752	A: ライブラリ関数の戻り値によって参照されているオブジェクトを変更することがあります。	○	○	
4753	S: ライブラリ関数の戻り値によって参照されているオブジェクトを変更する恐れがあります。	○	○	
4761	D: 手動で管理するメモリに格納されるオブジェクトは使用前に明示的に構成されなければなりません。	×	○	
4762	A: 手動で管理するメモリに格納されるオブジェクトは使用前に明示的に構成されなければなりません。	×	○	
4766	D: 手動で管理するメモリに格納されるオブジェクトは解放前に明示的に破棄されなければなりません。	×	○	
4767	A: 手動で管理するメモリに格納されるオブジェクトは解放前に明示的に破棄されなければなりません。	×	○	
4770	C: 予期しない NULL 文字列です。	×	○	
4771	D: 明らかに予期しない NULL 文字列です。	×	○	
4772	A: 予期しない NULL 文字列になることがあります。	×	○	
4773	S: 予期しない NULL 文字列になる恐れがあります。	×	○	
4774	P: 予期しない NULL 文字列になる可能性があります。	×	○	
4781	D: 明らかにシグナルハンドラによって errno の値が不定になります。	○	○	
4782	A: シグナルハンドラによって errno の値が不定になることがあります。	○	○	
4783	S: シグナルハンドラによって errno の値が不定になる恐れがあります。	○	○	
4784	P: シグナルハンドラによって errno の値が不定になる可能性があります。	○	○	
4791	D: 明らかに明示的に破棄されたオブジェクトが使用されています。	×	○	
4792	A: 明示的に破棄されたオブジェクトが使用されることがあります。	×	○	
4793	S: 明示的に破棄されたオブジェクトが使用される恐れがあります。	×	○	
4795	この出力仮引数は関数の終端で未規定の状態です。	○	○	
4796	静的記憶域期間またはスレッド記憶域期間を持つこのオブジェクトは、関数の終端で未規定の状態です。	○	○	
4836	D: 明らかに、C 言語のアトミックオブジェクトが初期化される前にアクセスされます。	○	○	
4837	A: C 言語のアトミックオブジェクトが初期化される前にアクセスされることがあります。	○	○	
4838	S: C 言語のアトミックオブジェクトが初期化される前にアクセスされる恐れがありま	○	○	

メッセージID	メッセージテキスト	QAC	QAC++	QAC 7.2.3
	す。			
4841	D: 明らかに fgetpos() で取得したものではないファイル位置を fsetpos() の実引数として渡しています。	○	○	
4842	A: fgetpos() で取得したものではないファイル位置を fsetpos() の実引数として渡すことがあります。	○	○	
4843	S: fgetpos() で取得したものではないファイル位置を fsetpos() の実引数として渡す恐れがあります。	○	○	
4844	P: fgetpos() で取得したものではないファイル位置を fsetpos() の実引数として渡す可能性があります。	○	○	
4846	D: 明らかにシグナルハンドラが計算例外から戻されます。	○	○	
4847	A: シグナルハンドラが計算例外から戻されることがあります。	○	○	
4848	S: シグナルハンドラが計算例外から戻される恐れがあります。	○	○	
4849	P: シグナルハンドラが計算例外から戻される可能性があります。	○	○	
4851	D: 明らかにファイルアクセス time-of-check time-of-use が競合状態です。	○	○	
4852	A: ファイルアクセス time-of-check time-of-use が競合状態になることがあります。	○	○	
4853	S: ファイルアクセス time-of-check time-of-use が競合状態になる恐れがあります。	○	○	
4856	D: 明らかに atexit ハンドラが通常の return で終了しません。	○	○	
4857	A: atexit ハンドラが通常の return で終了しないことがあります。	○	○	
4858	S: atexit ハンドラが通常の return で終了しない恐れがあります。	○	○	
4859	P: atexit ハンドラが通常の return で終了しない可能性があります。	○	○	
4861	D: 明らかに fgets または fgetws の呼出し後の不確定値を含む配列を使用しています。	○	○	
4862	A: fgets または fgetws の呼出し後の不確定値を含む配列を使用することがあります。	○	○	
4863	S: fgets または fgetws の呼出し後の不確定値を含む配列を使用する恐れがあります。	○	○	
4864	P: fgets または fgetws の呼出し後の不確定値を含む配列を使用する可能性があります。	○	○	
4866	D: 明らかに解放後のメモリを使用しています。	○	○	
4867	A: 解放後のメモリを使用することがあります。	○	○	
4868	S: 解放後のメモリを使用する恐れがあります。	○	○	
4869	P: 解放後のメモリを使用する可能性があります。	○	○	
4871	D: 明らかにサイズゼロが realloc, malloc, calloc に渡されています。	○	○	
4872	A: サイズゼロが realloc, malloc, calloc に渡されることがあります。	○	○	
4873	S: サイズゼロが realloc, malloc, calloc に渡される恐れがあります。	○	○	
4874	P: サイズゼロが realloc, malloc, calloc に渡される可能性があります。	○	○	
4876	D: 明らかに永続的なユーザ権限降格の成功がチェックされていません。	○	○	
4877	A: 永続的なユーザ権限降格の成功がチェックされていないことがあります。	○	○	
4878	S: 永続的なユーザ権限降格の成功がチェックされていない恐れがあります。	○	○	
4879	P: 永続的なユーザ権限降格の成功がチェックされていない可能性があります。	○	○	
4880	C: 指定されたオブジェクトは size_t 引数より小さいサイズです。	○	○	
4881	D: 明らかに指定されたオブジェクトは size_t 引数より小さいサイズです。	○	○	
4882	A: 指定されたオブジェクトは size_t 引数より小さいサイズであることがあります。	○	○	
4883	S: 指定されたオブジェクトは size_t 引数より小さいサイズである恐れがあります。	○	○	
4884	P: 指定されたオブジェクトは size_t 引数より小さいサイズである可能性があります。	○	○	
4886	D: 明らかにシンボリックリンクの存在チェック時に time-of-check time-of-use が競合状態です。	○	○	
4887	A: シンボリックリンクの存在チェック時に time-of-check time-of-use が競合状態になることがあります。	○	○	
4888	S: シンボリックリンクの存在チェック時に time-of-check time-of-use が競合状態に	○	○	

メッセージID	メッセージテキスト	QAC	QAC++	QAC 7.2.3
	なる恐れがあります。			
4891	D: 明らかに適切な権限破棄の順序になっていません。	○	○	
4892	A: 適切な権限破棄の順序になっていないことがあります。	○	○	
4893	S: 適切な権限破棄の順序になっていない恐れがあります。	○	○	
4894	P: 適切な権限破棄の順序になっていない可能性があります。	○	○	
4895	C: 値が列挙体のどの列挙子とも一致していません。	○	○	
4896	D: 明らかに値が列挙体のどの列挙子とも一致していません。	○	○	
4897	A: 値が列挙体のどの列挙子とも一致しないことがあります。	○	○	
4898	S: 値が列挙体のどの列挙子とも一致しない恐れがあります。	○	○	
4899	P: 値が列挙体のどの列挙子とも一致しない可能性があります。	○	○	
4901	D: 明らかに無効な va_arg の呼出しです。	○	○	
4902	A: 無効な va_arg の呼出しになることがあります。	○	○	
4903	S: 無効な va_arg の呼出しになる恐れがあります。	○	○	
4904	P: 無効な va_arg の呼出しになる可能性があります。	○	○	
4906	D: 明らかにデータがホストとネットワークのバイトオーダー間で正しく変換されていません。	○	○	
4907	A: データがホストとネットワークのバイトオーダー間で正しく変換されていないことがあります。	○	○	
4908	S: データがホストとネットワークのバイトオーダー間で正しく変換されていない恐れがあります。	○	○	
4911	D: 明らかに fgets または fgetws が空でない文字列を返すと仮定しています。	○	○	
4912	A: fgets または fgetws が空でない文字列を返すと仮定していることがあります。	○	○	
4913	S: fgets または fgetws が空でない文字列を返すと仮定している恐れがあります。	○	○	
4914	P: fgets または fgetws が空でない文字列を返すと仮定している可能性があります。	○	○	
4916	D: 明らかに汚染された変数をフォーマット文字列として使用しています。	○	○	
4917	A: 汚染された変数をフォーマット文字列として使用することがあります。	○	○	
4918	S: 汚染された変数をフォーマット文字列として使用する恐れがあります。	○	○	
4919	P: 汚染された変数をフォーマット文字列として使用する可能性があります。	○	○	
4921	D: ファイルと思われるデバイスを開く際に、明らかに汚染された変数をデバイス名として使用しています。	○	○	
4922	A: ファイルと思われるデバイスを開く際に、汚染された変数をデバイス名として使用することがあります。	○	○	
4923	S: ファイルと思われるデバイスを開く際に、汚染された変数をデバイス名として使用する恐れがあります。	○	○	
4924	P: ファイルと思われるデバイスを開く際に、汚染された変数をデバイス名として使用する可能性があります。	○	○	
4926	D: 明らかに、スレッド生成関数に渡された変数の生存期間がスレッドの生存期間より短いです。	○	○	
4927	A: スレッド生成関数に渡された変数の生存期間がスレッドの生存期間より短いことがあります。	○	○	
4928	S: スレッド生成関数に渡された変数の生存期間がスレッドの生存期間より短い恐れがあります。	○	○	
4931	D: 明らかに、既に初期化された mutex を初期化しています。	○	○	
4932	A: 既に初期化された mutex を初期化することがあります。	○	○	
4936	D: 明らかに、初期化されていない mutex を使用しています。	○	○	
4937	A: 初期化されていない mutex を使用することがあります。	○	○	
4941	D: 明らかに、パディングされた構造体を信頼できる範囲から他のドメインへ渡しています。	○	○	
4942	A: パディングされた構造体を信頼できる範囲から他のドメインへ渡すことがあります。	○	○	
4943	S: パディングされた構造体を信頼できる範囲から他のドメインへ渡す恐れがあります。	○	○	

メッセージID	メッセージテキスト	QAC	QAC++	QAC 7.2.3
4946	D:明らかに、スレッドの終了時に mutex がロックされたままになっています。	○	○	
4947	A:スレッドの終了時に mutex がロックされたままになることがあります。	○	○	
4951	D:fork およびファイル記述子を使用するときには競合状態に注意すべきです。	○	○	
4952	A:fork およびファイル記述子を使用するときには競合状態に注意してください。	○	○	
4955	C:スケーリングされた整数をポインタに加算/減算しています。	○	○	
4956	D:明らかに、スケーリングされた整数をポインタに加算/減算しています。	○	○	
4957	A:スケーリングされた整数をポインタに加算/減算することがあります。	○	○	
4961	D:明らかに、ロックされたままになっている mutex を破棄しようとしています。	○	○	
4962	A:ロックされたままになっている mutex を破棄しようとすることがあります。	○	○	
4966	D:明らかに、POSIX ロックを保持している間にブロック操作を実行しています。	○	○	
4967	A:POSIX ロックを保持している間にブロック操作を実行することがあります。	○	○	
4971	D:明らかに、現在実行中のスレッドによって作成されたのではない mutex を破棄しようとしています。	○	○	
4972	A:現在実行中のスレッドによって作成されたのではない mutex を破棄することがあります。	○	○	
4976	D:明らかに、クリティカルセクションの外で再入不可の関数を呼出しています。	○	○	
4977	A:クリティカルセクションの外で再入不可の関数を呼び出すことがあります。	○	○	
4981	D:明らかに、現在実行中のスレッドによってロックされたのではない mutex をアンロックしようとしています。	○	○	
4982	A:現在実行中のスレッドによってロックされたのではない mutex をアンロックしようとすることがあります。	○	○	
4986	D:明らかに、すでにロックされている非再帰的 mutex をロックしようとしています。	○	○	
4987	A:すでにロックされている非再帰的 mutex をロックしようとすることがあります。	○	○	
4991	D:明らかに、3 番目の実引数として main 関数に渡された環境ポインタの無効な値 '%s'を使用しています。	○	○	
4992	A:3 番目の実引数として main 関数に渡された環境ポインタの無効な値 '%s'を使用することがあります。	○	○	
4993	S:3 番目の実引数として main 関数に渡された環境ポインタの無効な値 '%s'を使用する恐れがあります。	○	○	
4995	C:無効なスレッド識別子を使用しています。	○	○	
4996	D:明らかに、無効なスレッド識別子を使用しています。	○	○	
4997	A:無効なスレッド識別子を使用することがあります。	○	○	
4998	S:無効なスレッド識別子を使用している恐れがあります。	○	○	